

# つくしだより



平成28年9月号

障害者入所施設における殺傷事件に  
関して考えたこと

都連会長 眞壁 博美

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で発生した事件は、あまりに残忍で卑劣なものでした。不幸にして亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますと共に、ご家族の皆様には心よりお悔やみ申し上げます。また、負傷された方々の一日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

犯行に及んだ男の残忍な行動は、いかなることがあっても決して許すことは出来ません。

私はまず、事件の報道を受けて、3つの衝撃を受けました。

まず第一は、重度障害者がナイフで襲われ、多くの死傷者を出したことです。しかも容疑者が元職員であったこと。

第二に犯行の動機が「重度の障害者は生きていても仕方がない。安楽死させた方が良い」という「優生思想」の考え方だったこと。

第三に、容疑者が精神科病院に措置入院されていたとの報道が繰り返され、精神障害者への偏見や差別が増すのではないかという不安でした。

都連の事務所にも、「自分も、措置入院をしたことがあるが、あんな事件を起こすのか心配」との当事者から電話が寄せられました。

事件報道に対する2つの違和感

第一は、事件発生当初は、容疑者が措置入院になっていたということが大々的に報道されました。

精神保健福祉法による措置入院は精神障害によって自傷他害のおそれがある場合の強制入院です。他害のおそれが明らかでも、精神障害でなければ措置入院の対象にはならないのですが、大量殺人をすと言っている人間を放置できないという理由で診断名をつけて強制入院させるというケースも考えられます。容疑者は、極端な差別思想の持ち主であって、措置入院の対象ではなかったかもしれないかもしれません。

第二は、普通、事件などで亡くなった方は名前を報道されますが、19名の方たちは名前も公表されません。死してなお障害者として扱われることに、この国の差別・偏見の根深さを実感しました。

真相の解明と本質的な課題に迫って  
まずは真相の解明をしてほしい。  
それと並行して、本質的な課題に迫

ってほしいです。

政府は措置入院制度を見直す旨を報道していますが、いわゆる社会防衛的な政策では、決してあってはいけないと思います。また、厚労省は、障害者施設の防犯策の強化を強調していますが、防犯策のみの強化は、地域との隔絶の新たなきっかけになりかねません。

私は、市民が障害者への理解を深めるためには、いつも障害者と身近に暮らしていくことだと思います。そのためには、障害者を山奥にある大きな施設で居住させるのではなく、地域で当たり前に暮らすための質と量の政策を飛躍的に拡充することが大事だと思います。

今回の事件は、優生思想の極端な考えを持った容疑者によって引き起こされました。しかし、優生思想は、この容疑者だけではなく、ごく一般的な市民の中にもある考えです。障害者権利条約17条では「その心身がそのままの状態尊重される権利を有する」と明記されています。今度の不幸な事件をインクルーシブな社会、分け隔てのない社会をつくるための新しいきっかけにするべきだと思います。



でにご覧の方もいると思いますが、東京つくし会のホームページが新しくなりました。ホームページのデザインも全体的に更に明るくやわらかいものになっています。1ページ目を開くとサイトツリーといわれている見出しが上の段に出てきます。それぞれをクリックしてみてください。それぞれの内容を見ることが出来ます。

① 東京つくし会について：当会の設立の経緯、「通称・東京つくし会」の名称の由来、沿革、組織運営について説明しています。

② 事業内容：家族相談、家族相談員養成講座、年間スケジュール、ブロック会議について

③ 地域・病院家族会：都内の地域家族会、病院家族会と連絡先を紹介しています。

それぞれをクリックすると各家族会の内容が紹介され、ホームページをもっている家族会につながり（リンクされ）その家族会の内容を知ることができます。まだ全ての家族会の内容紹介ができていませんが単会調査を実施し、更に各家族会の情報を充実させたいと考えています。

④ 情報提供：今月のつくし便り、これまでの「つくしだより」のバックナンバー（つくし便りの過去号）を見ることが出来ます。また無年金障害者をなくす会ともリンクされ情報が得られます。今は工事中ですが諸

制度等についての情報も提供する予定です。入会のご案内、会員内容について⑥アクセス⑦お問い合わせ となっています。

⑤ また今までは載せていませんでしたが当会の会則や事業内容として都民精神保健福祉・啓発活動、東京都への予算要望活動の具体的な内容なども盛り込まれています。

当会は更にホームページの内容を充実させ会員の方の情報提供に資するのはもちろんのこと、広くより多くの方々に精神障害者や家族が尊厳を守られ支援を受けながら希望をもって地域で生活できる社会、精神保健福祉に関する理解・啓発を促進できるようなホームページも役立たせていきたいと思っています。各家族会の行事案内・投稿なども掲載いたしますのでどしどしお寄せください。

最後に今まで東京つくし会のホームページ作り、管理運営にご尽力いただいた西多摩虹の会・小笠原氏に心より感謝いたします。

\*ホームページアドレス

<http://ttsukushi.sakura.ne.jp>

東京つくし会で検索できます。



## 五〇周年記念に向けて

### 記念式典・パーティーの概要

理事 轡田英夫

東京都精神保健福祉家族会連合会は、平成30年に創立50年を迎えます。このための式典及びその後のパーティーをどのようにして進めるかについて現在検討中です。

式典及びパーティーの会場として有力な候補地としては中野サンプラザが上がっています。ここはJR中野駅から徒歩3分という交通至便の所に立地しているので、参加者にとって便利な所です。

次に日程及び時間ですが、日程としては平成30年の2月で第1候補として23(金)、第2候補として16(金)を検討しています。新年会の多い1月と送別会、卒業式などが多い3月を避けての選択です。時間としては、午後1時半ごろから約1時間式典、その後30分ほど休憩を置いて3時頃から5時頃の2時間をパーティーにあてる予定です。

規模については、最大150人程度を想定しています。内訳は、概数で都知事・都議会関係・都行政関係・関係団体代表者等で約50名、単会からの出席者約100名といったところです。

式典の形式は、式場に椅子を並べて着席形式で行います。記念講演は、今回は時間的にあま

り取れないので別の機会に設定したいと考えています。パーティーの形式は、着席ビュッフェという形式で、ビュッフェですが飲食するときはテーブルで飲食するという形式ですので楽に過ごせると思います。

パーティー参加費としては、1人当たり5千円程度度に収める事が出来れば良いかなと思っっています。

以上現在の段階での素案です。今後一層の検討を経て成案としていきたいと考えています。



### 記念誌部会の報告

副会長 川崎洋子

8月8日(月)担当者6名は東京都障害者福祉会館に集まりました。

平成30年3月発行を目指し、これからの予定を立てました。今年度の計画としては、記念誌の大きさ・ページ数、原稿の整理、写真選びなどがあります。

話し合ったこと

① 大きさはA4

② 記念誌のタイトルについては、何かメッセージ的なものがよいのではないかと参考としては、全家連の「みんなで歩けば道になる」があげられました。

③ いま集まっている原稿の確認。読みあわせの必要がありますが、全員で行うのは困難。集まっている原稿5本に関して1本を2名で担当し、次回までに整理することにした。

④ 原稿の年表、座談会のまとめをどうするか、編集段階で検討します。

⑤ 今後の編集には専門家として、萌文社の谷さんに加わってもらうことを確認しました。

⑥ 今後の仕事としては、写真の整理、まだ依頼していない原稿の確認。

⑦ ページ建てをして、全体のページを決めます。

⑧ 制作費の概算をします。

さまざまな記念誌が出されていますが、つくし会の50年の軌跡を多くの人にわかってもらいたい、私たちも活動を振り返り、更なる展開ができるような記念誌を目指していきたいと考えています。



東京つくし会の正式名称が

「東京都精神保健福祉家族会連合会」と  
変更になりました！

都連副会長 植松和光

先般6月に行われた平成28年度東京つくし  
会評議員会において、昭和63年に変更制定さ  
れた「東京都精神障害者家族会連合会」という  
長年、家族や関係者の皆様に愛されてきた名称  
の変更を満場一致で承認しました。

東京つくし会は昭和43年に10家族会で設立  
されました。当初の名称は「東京都精神障害者  
を守る連合会」でまさに社会の差別や偏見か  
精神障害者を守るためのものでした。

その後平成7年には精神保健福祉法の成立  
や最近では障害者権利条約の批准、障害者差別  
解消法の施行などにより、精神障害者や精神  
福祉をめぐる状況が変化してきています。一  
のような状況の中で精神障害者が地域で安心  
して暮らせる社会の仕組みづくりさらに前  
させていかなければなりません。そのためには  
東京つくし会は、多くの専門家の方や地域の主  
援者の皆さん等の力が今まで以上に必要と  
感じ、今回の名称変更となりました。今後と  
皆様のご支援ご協力をお願い致します。

## 講演会のお知らせ

☆10/8(土) 地域で自分らしく生きるために！～ACTの経験に学ぶ～

講師：メンタルヘルス診療所しっぽふあーれ NPO法人ゆるら理事長  
精神科医 岩谷 潤氏

会場：立川市幸学習館2階講堂 申込不要

主催：立川麦の会 042-507-6015

☆10/8(土) 未定 講師：東邦大学医学部精神神経医学講座 教授

水野 雅文氏 会場：新宿区立障害者福祉センター

主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。



ありがとうございます。

☆賛助会員 (敬称略)  
伊勢田 堯 20000円  
多摩病院 100000円  
あきる台病院 100000円  
大内病院 100000円

100000円  
100000円  
100000円  
20000円

## 編集後記

私の得意とするところについてお伝  
えてみようと思う。それは「小さな  
幸せ」を見つけることにおいては天才  
的？と思えること。たとえば気の重い  
要件で道を歩いている時、通り過ぎる  
美しいアゲハチョウを見つけた時。し  
ばしその紫の色と羽の動きのあでやか  
さにうっとり。あーなんとという幸せ。

至福のひとつに感謝。アゲハが生  
きてゆける自然を守りたいと思える自分  
を見つける。あるときは今日は一日忙し  
い、がんばらなくちゃとバス停へ。ふと  
見上げた青空の向こうに大きな大きな雲  
の峰。巨大な自然のエネルギーとその造  
形美に見惚れてしまう。自然はなんとす  
ばらしい、と思いつつながらその雲に力をも  
らっている自分を発見。特にこの頃の夏  
から秋への季節の移ろいの中で喜びをも  
らうことがたくさん。先日也都心なのに  
まごうことなき「カントン」の声。思わ  
ず足を止めた。こんなところで、と神様  
に感謝したい気分だ。日本の鳴く虫の中  
でカントンとエンマコオロギは私の双壁  
である。あー幸せ、幸せ。生きているこ  
とは素晴らしい、と思える瞬間である。

都連副会長

本田 道子



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。